

イベント開催時のチェックリスト

【第2版（令和4年1月版）】

開催概要

科学分析や測定に関して、大学及び企業の先生が特別講演をした後、17人の企業の専門家等が自社の製品や技術を紹介する。

イベント名

第46回分析展と講演・技術発表会

(<https://osakaira.com/2021/12/2005/>)

出演者・チーム等

富士フィルム和光純薬(株)機能性材料研究所
名古屋工業大学大学院工学研究科
企業等からの出講者（18名）プログラム添付

三浦 亨 氏
大谷 肇 氏

開催日時

令和4年2月24日、25日 9時30分～17時00分

開催会場

（地独）大阪産業技術研究所森之宮センター

会場所在地

大阪市城東区森之宮 1-6-50

主催者

一般社団法人大阪工研協会

主催者所在地

大阪市城東区森之宮1丁目6番50号
(地独) 大阪産業技術研究所森之宮センター内

主催者連絡先

（電話番号）

06-6962-5301

（メールアドレス）

info@osakaira.com

収容率（上限）

100%（※）
(大声なし)

人と人との間隔
程度の間隔

50%（※）
(大声あり)

十分な人ととの間隔
(できるだけ2m、最低1m)

収容人数

収容定員あり

120人

収容定員なし

参加人数

60人以内

その他特記事項

講演者1人が、充分な防護板の後ろで、マスクをしたままマイクで話します。質問時は、質問者がマスクをしたまま、ワイヤレスマイクで質問します。聴講者同士は、充分な距離を空けています。

（※）大声の定義を「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントは「大声あり」に該当することと整理する。

第46回 分析展と講演・技術発表会

最新分析技術およびオンライン工業技術シーズ



主催 (一社) 大阪工研協会

後援 (地独) 大阪産業技術研究所

協賛 (公社) 高分子学会関西支部

(一社) 日本接着学会 (公社) 日本分析化学会近畿支部

とき 2022年2月24日(木)・25日(金)

9:30~17:00

ところ (地独) 大阪産業技術研究所森之宮センター

特別講演

2月24日(木)

- 10:00~11:10 NMRを用いた定量分析(定量NMR、qNMR)の基礎と応用について

富士フィルム和光純薬株式会社 機能性材料研究所 主任研究員 三浦 亨

2月25日(金)

- 10:00~11:10 海洋マイクロプラスチック分析の現状と課題

名古屋工業大学大学院工学研究科 教授 大谷 肇

講演とポスター

2月24日(木)

- 11:15~11:35 更なる高性能を、より小さく、より簡単に! ~新型NMR分光計ECZ Luminousのご紹介~ 日本電子(株) 櫻井 智司
- 11:35~11:55 受託調整サービスの紹介 林純薬工業(株) 機能化学品グループ 小西 博史

休憩

- 13:00~13:20 卓上型XRF装置による液体分析例 (株)リガク X線機器事業部 上村 奕平
- 13:20~13:40 蛍光X線膜厚計ー薄膜FP法によるnmスケールの膜厚測定事例紹介 (株)フィッシャー・インストルメンツ アプリケーション担当 阿部 海

- 13:40~14:00 超微小押し込み硬さ試験機(ナノインデンター)のご紹介 (株)エリオニクス 西日本営業所 奥村 直也

コアタイム

- 14:30~14:50 含硫黄化合物メーカーが提案する機能性メルカプタンの合成と展開 旭化学工業(株) 開発営業部 楠 規彦

- 14:50~15:10 ニオイを元から拭き取れる除菌消臭剤「リフレッシュ・ラボ」の開発 (株)ニイタカ 技術部 米川 怜史

- 15:10~15:30 サーマルカメラ顔認証手指衛生管理システム サラヤ(株) テクニカルデザイン開発部 黄 小波

2月25日(金)

- 11:15~11:35 プラスチック分析の最新ソリューション (株)島津製作所 分析計測事業部 川原 和美

- 11:35~11:55 顕微赤外分光イメージングを活用した微小物・マイクロプラスチックの迅速分析 プルカージャパン(株) オブティクス事業部 松原 智之

休憩

- 13:00~13:20 UV下面照射型ATRアクセサリーのご紹介 (株)エス・ティ・ジャパン 大阪支店・営業部 岸 靖之

- 13:20~13:40 MCR702eマルチドライブレオメーターを用いた、ポリマー材料のせん断・引張変形下における粘弾性測定 (株)アントンバール・ジャパン 嶺岸 明生

- 13:40~14:00 成形プロセスにおける熱分析 ネッチ・ジャパン(株) アプリケーショングループ 塚本 修

- 14:00~14:20 押出機市場のトレンドとテクノベルの取り組み (株)テクノベル 取締役専務 澤 周作

コアタイム

- 14:50~15:10 耐クラック性と高耐食に優れた装飾用電気ニッケルめっき 「TOP DuNCプロセス」の開発 奥野製薬工業(株) 総合技術研究部 西井 彰宏

- 15:10~15:30 折畳み型有機ELデバイスに適用可能な吸湿性・密着性を有する封止材料の開発 パナソニック(株)インダストリー社 電子材料事業部 池上 裕基

- 15:30~15:50 カリックスアレーン構造を利用した高機能性の熱硬化性樹脂開発 (地独)大阪産業技術研究所 有機材料研究部 米川 盛生

ポスターのみ

- 蓄電池の高速充放電性能向上のための簡便な充放電分布観察手法の開発 (地独)大阪産業技術研究所 環境技術研究部 丸山 翔平

(●機器メーカー ●工業技術賞)

感染防止策チェックリスト

【第2版（令和4年1月版）】

基本的な 感染防止

イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。

※5,000人超のイベント開催時には、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。

①飛沫の抑制（マスク着用や大声を出さないこと）の徹底

【大声なしの場合】

飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク（品質の確かな、できれば不織布）の正しい着用や大声（※）を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる。

（※）大声の定義を「観客等が、①通常よりも大きな声量で、②反復・継続的に声を発すること」とする。

【大声ありの場合】

「大声なしの場合」の「大声」を「常時大声を出す行為」と読み替える。

②手洗、手指・施設消毒の徹底

こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す（会場出入口等へのアルコール等の手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施。）。

主催者側による施設内（出入口、トイレ、共用部等）の定期的かつこまめな消毒の実施。

③換気の徹底

法令を遵守した空調設備の設置による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上・1回に5分間以上等）の徹底。

④来場者間の密集回避

入退場時の密集を回避するための措置（入場ゲートの増設や時間差入退場等）の実施。

休憩時間や待合場所での密集も回避するための人員配置や動線確保等の体制構築。

大声を伴わない場合には、人と人が触れ合わない間隔、大声を伴う可能性のあるイベントは、前後左右の座席との身体的距離の確保

感染防止策チェックリスト

【第2版（令和4年1月版）】

基本的な 感染防止

イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。

※5,000人超のイベント開催時には、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。

⑤飲食の制限

- 飲食時の感染防止策（飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策）の徹底。
- 飲食中以外のマスク着用の推奨。
- 長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外（例：観客席等）は自粛。
- 飲食提供は業種別ガイドラインの遵守、同一テーブル4人以内など、業態に応じた感染防止策を講じる大阪府の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断（提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討。）。
- ※イベント開催時における大阪府の要請内容については、HP等で確認してください。

⑥出演者等の感染対策

- 有症状者（発熱又は風邪等の症状を呈する者）は出演・練習を控えるなど日常から出演者やスタッフ等の健康管理を徹底する。
- 練習時等、イベント開催前も含め、声を発する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する。
- 出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる（誘導スタッフ等必要な場合を除く。）。

⑦参加者の把握・管理等

- チケット購入時又は入場時の連絡先確認やCOCOAや大阪コロナ追跡システム等を活用した参加者の把握。
- 入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）等を理由に入場できなかつた際の払戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止。
- 時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注意喚起。